

平成21年12月期 決算説明資料

Clean, Health, Safety



興研株式会社

平成22年 2月 26日

平成21年12月期 決算概要

営業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、各国政府の金融安定化策や景気刺激策によって、一部緩やかな改善が見え始めたものの、国内の企業収益や雇用・所得環境は未だ厳しい状況が続いており、景気の反転力は依然として不透明なまま推移しました。

このような厳しい経営環境の中、マスク関連事業部門においては、**電動ファン付き呼吸用保護具**の石綿作業での着用義務化にともなう需要増や医療機関への**新型インフルエンザ対策用マスク**の販売増がありました。主力市場である製造業の生産及び雇用が本格的な回復には至らなかったため、防じんマスク、防毒マスクの販売は低調に推移し、売上高70億76百万円、前事業年度比2.9%の減収となりました。

環境関連事業部門においては、前事業年度より営業強化を行ってきた**ホルムアルデヒド対策用換気装置**の販売が大きく伸び、売上高10億25百万円、前事業年度比84.2%の増収となりました。

以上の結果、両部門を合わせた当事業年度の売上高は、81億2百万円、前事業年度比3.3%増となりました。

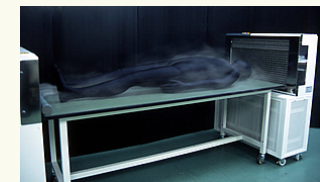
利益につきましては、高収益製品である防じんマスクの販売減、顧客のコスト削減策の進展及び減価償却の耐用年数短縮等による売上原価率の上昇に加え、退職給付費用として1億76百万円を販売費及び一般管理費に計上したことから、営業利益は5億93百万円、前事業年度比16.5%減、経常利益は4億48百万円、前事業年度比24.6%減、当期純利益は2億68百万円、前事業年度比19.2%減となりました。



電動ファン付き呼吸用保護具

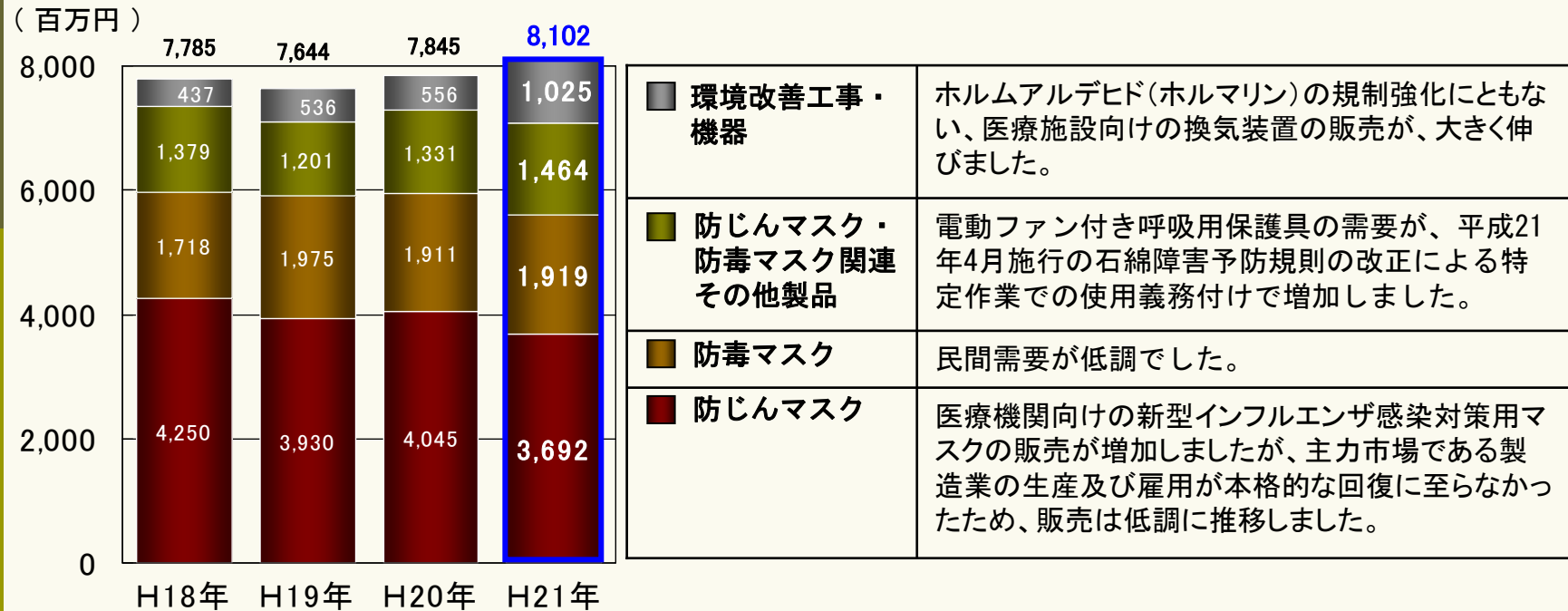


新型インフルエンザ
対策用マスク



ホルムアルデヒド
対策用換気装置

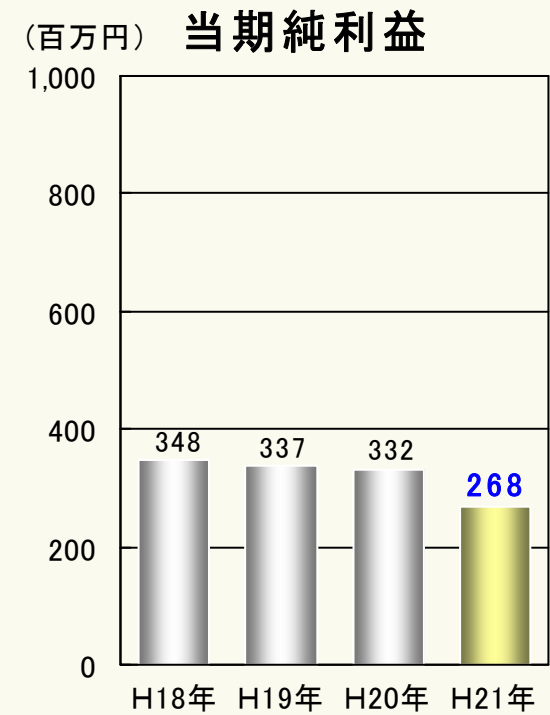
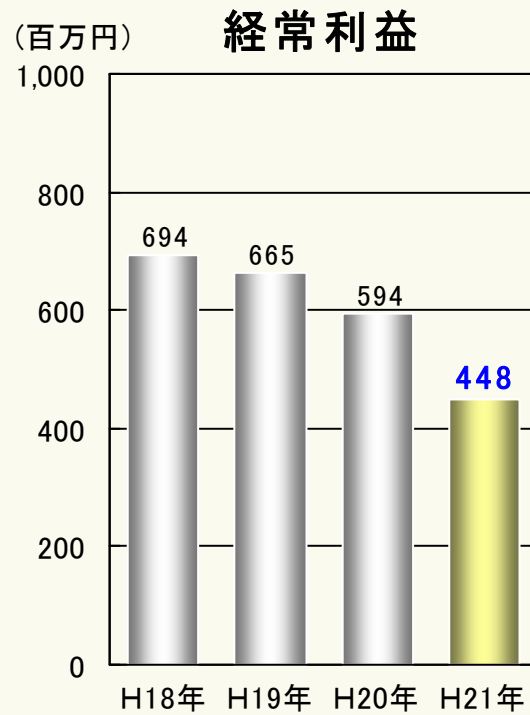
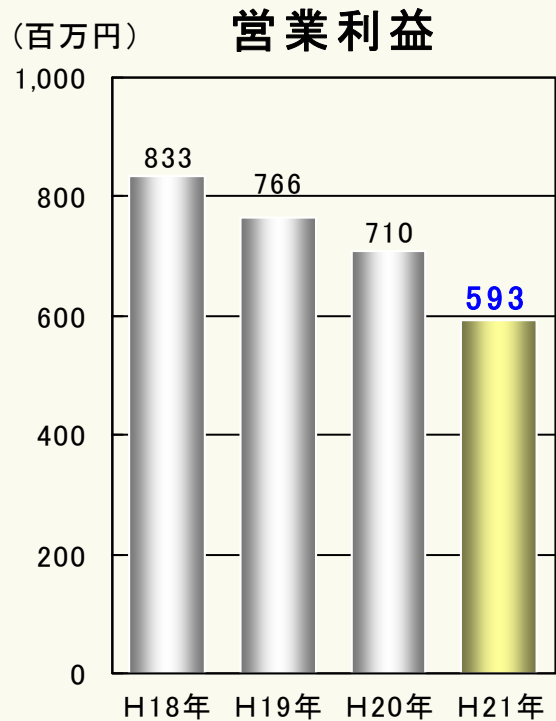
売上高・売上構成比の推移



(百万円未満の端数切り捨て)

品目区分	平成18年		平成19年		平成20年		平成21年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 環境改善工事・機器	437	5.6%	536	7.0%	556	7.1%	1,025	12.7%
■ 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品	1,379	17.7%	1,201	15.7%	1,331	17.0%	1,464	18.1%
■ 防毒マスク	1,718	22.1%	1,975	25.9%	1,911	24.4%	1,919	23.7%
■ 防じんマスク	4,250	54.6%	3,930	51.4%	4,045	51.5%	3,692	45.5%
合計	7,785	100.0%	7,644	100.0%	7,845	100.0%	8,102	100.0%

営業利益・経常利益・当期純利益の推移



(百万円未満の端数切り捨て)

主要な経営指標等の推移

(千円未満の端数切り捨て)

区分	第44期 平成18年12月期	第45期 平成19年12月期	第46期 平成20年12月期	第47期 平成21年12月期
売上高(千円)	7,785,851	7,644,859	7,845,556	8,102,194
営業利益(千円)	833,186	766,090	710,918	593,657
経常利益(千円)	694,232	665,875	594,546	448,168
当期純利益(千円)	348,430	337,950	332,058	268,361
1株当たり当期純利益	69円 39銭	66円 92銭	65円 71銭	53円 6銭
自己資本当期純利益率	4.8%	4.6%	4.4%	3.5%
総資産経常利益率	4.6%	4.4%	3.8%	2.7%
売上高営業利益率	10.7%	10.0%	9.1%	7.3%
1株当たり年間配当金	25円 00銭	25円 00銭	25円 00銭	25円 00銭
配当性向	36.2%	37.4%	38.0%	47.1%
純資産配当率	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%
総資産(千円)	15,155,100	15,198,789	16,357,462	16,330,742
純資産(千円)	7,329,569	7,478,239	7,618,476	7,737,594
自己資本比率	48.4%	49.1%	46.4%	47.1%
1株当たり純資産	1,451円 79銭	1,477円 79銭	1,499円 63銭	1,522円 27銭

◇クリーンビジネスへの本格的参入

～注目を集めるオープンクリーンベンチ「KOACH」～

H20年11月に技術開発に関するリリースを行った**オープンクリーンベンチ「KOACH（コーチ）」**を、各種展示会に出品いたしました。特に12月に開催された半導体製造装置・材料の国際展示会「セミコン・ジャパン2009」では、「KOACH」がオープン空間に作り出す清浄度の高さと“そのクリーンルームは必要ですか？”という当社のメッセージが、来訪者に衝撃を与え、各企業からは作業現場での実地テストの要望が数多く寄せられました。

クリーンルームは、新設には莫大な設備投資が必要、維持管理費用が多大（CO₂排出量大）、粉じん等の侵入でルーム内が汚染されると現状復帰まで相当な時間・費用がかかる、不必要な範囲まで清浄化しなければならない等の多くの問題点を抱えており、クリーン化は全体（クリーンルーム）から局所（KOACH等のミニエンバイロメント）へ移っていくことは時代の流れと言えます。

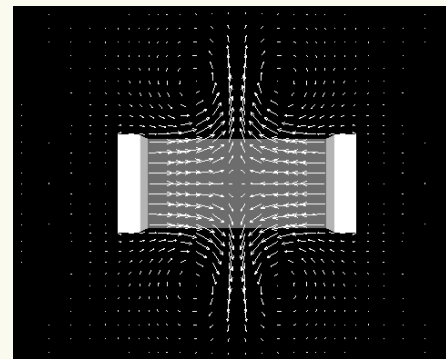
「KOACH」は、“いつでも”、“どこにでも” ISOクラス5のクリーンゾーンを形成することができ、上述したクリーンルームの問題点を解決します。

今後、半導体、精密機械といった業種だけでなく薬品、食品等の高い清浄度を必要とする各業種の展示会に参加して、「KOACH」をはじめとしたクリーンビジネスの早期立ち上げに努めてまいります。



《KOACHの特長》特許出願中

- 稼働後30秒で、ISOクラス5のクリーンゾーンが出現
- 研究室、生産現場など場所を選ばず、ISOクラス5の清浄度を実現
- 汚染した作業者が装置の傍らに立っても、清浄度への影響はなし



《KOACHの気流シミュレーション》

- 同一ベクトルの集合流から生まれたコヒーレントなエアフローを対向させた時、奇跡が起こりました



《展示会》

- H21年12月2日から4日まで幕張メッセで開催されたセミコンジャパン2009に出展しました

◇インフルエンザ等の感染症を防ぐ2つのマスクを発売

～ハイラックUTSUSANZO・KAKARANZO～

強い毒性と感染力を持つインフルエンザ等の感染症が発生した場合、感染の拡大を防ぐためには感染した患者を隔離し、外部との接触を絶つことが不可欠です。しかし、隔離施設の数には限度があり、万が一パンデミック状態になったときは対応不能になることも予想されます。

そのような場合、低コストで大量に対応できる方法が求められることから、当社では、医療機関でフィット性能を高く評価されているN95レスピレーター「サカキ式ハイラック350型」の技術を応用した個人のミニマム隔離マスク「**ハイラックUTSUSANZO (うつさんぞ)**」を製品化したしました。

「ハイラックUTSUSANZO」は、感染症の患者もしくは感染の疑いがある人が着用し、ウイルス・細菌等の拡散を防ぎます。また、ウイルス・細菌等から鼻やのどを守るためのマスクとして「**ハイラックKAKARANZO (かからんぞ)**」も同時に発売いたしました。両マスクは、共に高いフィット性能を有しており、インフルエンザ等の感染を防ぎます。

当社では、“感染させない”ための感染症患者専用マスク「ハイラックUTSUSANZO」と“感染しない”ための感染症予防用マスク「ハイラックKAKARANZO」の使い分けを医療機関に提案し、さらなる普及を図る所存です。

ハイラックUTSUSANZO (うつさんぞ)

“感染させない”
ために着用するマスク

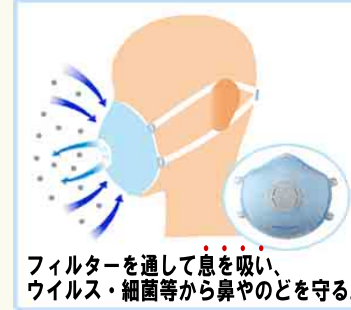
患者専用



ハイラックKAKARANZO (かからんぞ)

“感染しない”
ために着用するマスク

健康な人用



◇株主優待制度を新設

～当社製品の優先購入が出来るチケットを贈呈～

当社が製造・販売しております呼吸用保護具（マスク）は、鳥インフルエンザやテロ等の不測の事態が発生した場合、全国から注文が寄せられ入手が困難となる可能性があります。今般の新型インフルエンザA（H1N1）型の発生は、国内においてマスクが不足するという状況をもたらしました。

本来この種の事態の発生は頻繁に起こるものではなく、対策用のマスクも日常生活においては不要です。また不時の事態に備えて家庭内にマスクをストックしておく場合には、適切な管理等が必要となります。

当社は、重要なステークホルダーである株主様の安全と安心を常時確保するためには、必要な時に優先してマスクをご提供する仕組みと、当社が株主様のストックヤードとしての保管・管理の機能を果たすことが有効であると考え、株主優待制度を活用することにいたしました。

本制度は、単なる物質的な株主還元策ではなく、株主様への安全と安心のご提供を目的としたものです。

対象株主

毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上かつ1年以上継続して保有されている株主様。

優待内容

当社製品（下記2製品）の優先購入ができるチケット『優先購入券（KOKEN安全・安心チケット）』を保有株式数（1,000株以上、3,000株以上、5,000株以上）、保有年数（1年以上、3年以上、5年以上）に応じて贈呈。

同チケットには、100%割引と30%割引の2種類があり、それぞれ購入の上限数を設定。

優待製品



使い捨て式防じんマスク
（N95レスピレーター）
「サカキ式ハイラック350型」

主な用途

- 結核、インフルエンザ、SARSなどの感染症やその疑いのある患者の装着による他者への感染抑止
- 感染症や疑いのある患者からの感染防止
- 花粉症対策
- 日常の粉じん作業



火災・特殊災害避難用マスク
「ライフマスター」

主な用途

- テロ等でNBC兵器が使用された時の危険地域からの緊急避難（N:核兵器、B:生物兵器、C:化学兵器）
- 高層マンションやホテル・旅館などの火災時の緊急避難（一酸化炭素、煙）
- 地震による建物倒壊で発生する粉じんの吸入防止（石綿粉じん、一般粉じん）
- 噴火による火山性ガスや火山灰の吸入防止（硫化水素、二酸化いおう、火山灰）
- 化学工場災害における周辺地域からの緊急避難（有機溶剤蒸気、酸性ガス、アルカリ性ガス）
- 原子力施設・周辺地域からの緊急避難（放射性粉じん、ヨウ素、ヨウ化メチル）

研究開発

Clean, Health, Safety

当社の研究開発は、当社の基本方針である『クリーン、ヘルス、セーフティ』の追求に対し、自由で独創的な技術開発とその多面的応用を目指して活動しております。とりわけ「労働安全衛生保護具」、「作業環境改善」については、長年の技術蓄積を持ち、信頼を勝ち得ている分野ですが、なお革新性の高い技術に挑んでいます。さらに未来技術の基礎開発・応用開発にプロジェクトチームを含めマトリックス型の研究体制を敷いております。

なお、研究開発担当人員は73名、当事業年度の研究開発費は、総額4億92百万円であります。当事業年度中の主な開発製品は以下の通りです。

①オープンクリーンベンチ・オープンクリーンブース「KOACH」

オープンクリーンベンチ・オープンクリーンブース「KOACH（コーチ）」は、対向させた2つのプッシュフードから吹き出す清浄化された一様流を衝突させる（対向型気流）ことで周囲の空気の侵入を抑制し、オープン空間でありながらISOクラス5のクリーンゾーンを形成します。

今般、スタンダードタイプの「KOACH900-H」とスモールタイプの「KOACH645-H」を開発しました。展示会への出展の度に、その世界初のクリーン化技術はもちろん、CO2排出抑制に寄与する点でも注目度が増しております。



KOACH900-H



KOACH645-H



サカキ式BL-700U

②ナノ材料ばく露防止対策用 電動ファン付き呼吸用保護具「サカキ式BL-700U」他、プッシュプル型換気装置「LAMI KOACH」

近年積極的な研究開発が行われているナノ材料については、その生体への影響を示す研究報告がなされています。当社では、ナノ材料ばく露防止対策用の電動ファン付き呼吸用保護具「サカキ式BL-700U」「サカキ式BL-100U」と防じんマスク「サカキ式1721U」「サカキ式7191DKU型」及びプッシュプル型換気装置「LAMI KOACH（ラミコーチ）」を開発しました。

なお、厚生労働省からは、H21年3月「ナノ材料に対するばく露防止等のための予防的対応について」の通達が出されています。



LAMI KOACH

③感染症患者専用マスク「ハイラックUTSUSANZO」、感染症予防用マスク「ハイラックKAKARANZO」

医療機関でそのフィット性が高く評価されているN95レスピレーター「ハイラック350型」の技術を応用した感染症患者専用マスク「ハイラックUTSUSANZO（うつさんぞ）」と感染症予防用マスク「ハイラックKAKARANZO（かからんぞ）」の製品化を行いました。



ハイラックUTSUSANZO
ハイラックKAKARANZO

(百万円未満の端数切り捨て)

貸借対照表

科目	H20年 12月末	H21年 12月末	前年比 増減額	科目	H20年 12月末	H21年 12月末	前年比 増減額
流動資産	6,694	6,630	△64	負債	8,738	8,593	△145
現金及び預金	1,617	1,666	48	流動負債	3,408	5,449	2,041
受取手形	1,342	1,233	△108	固定負債	5,330	3,143	△2,187
売掛金	1,998	2,122	124	純資産	7,618	7,737	119
たな卸資産	1,526	1,389	△136	株主資本	7,552	7,694	141
その他の流動資産	213	222	8	資本金	674	674	-
貸倒引当金	△4	△4	-	資本剰余金	528	528	-
固定資産	9,662	9,700	37	利益剰余金	6,391	6,532	141
有形固定資産	8,385	8,281	△103	自己株式	△41	△41	0
無形固定資産	23	26	3	評価・換算差額等	32	4	△27
投資その他の資産	1,254	1,391	137	新株予約権	33	38	4
資産合計	16,357	16,330	△26	負債・純資産合計	16,357	16,330	△26

損益計算書

(百万円未満の端数切り捨て)

科 目	前事業年度 平成20年1月1日から 平成20年12月31日まで	当事業年度 平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで	前年比 増減額
売 上 高	7,845	8,102	256
売上原価	4,320	4,576	256
売上総利益	3,524	3,525	0
販売費及び一般管理費	2,813	2,931	117
営業利益	710	593	△117
営業外収益	33	24	△9
受取利息	3	1	△2
その他の営業外収益	29	23	△6
営業外費用	150	169	19
支払利息	72	77	4
社債利息	23	23	-
その他の営業外費用	54	69	15
経常利益	594	448	△146
特別利益	8	64	55
特別損失	32	53	21
税引前当期純利益	570	458	△112
法人税、住民税及び事業税	247	341	94
法人税等調整額	△8	△150	△142
当期純利益	332	268	△63

キャッシュ・フロー計算書

(百万円未満の端数切り捨て)

科 目	前事業年度	当事業年度
	平成20年1月1日から 平成20年12月31日まで	平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	762	1,109
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,900	△397
財務活動によるキャッシュ・フロー	847	△663
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△290	48
現金及び現金同等物の期首残高	1,907	1,617
現金及び現金同等物の期末残高	1,617	1,666

平成22年12月期の業績予想

次期の見通し

(百万円未満の端数切り捨て)

区 分	第47期実績 平成21年12月期	第48期予想 平成22年12月期
売上高(百万円)	8,102	7,900
営業利益(百万円)	593	590
経常利益(百万円)	448	490
当期純利益(百万円)	268	280
1株当たり当期純利益	53円 6銭	55円 36銭

Clean, Health, Safety



ブレスリンク
ブローマスク



KOACH



ハイラックUTSUSANZO
ハイラックKAKARANZO

国内の製造業の自律回復への道筋は依然不透明な状況であり、当社のマスク関連事業も引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。その中であって、これまで着実に販売数を伸ばしてきた電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンクブローマスク」の多業種への拡販と昨年製品化したしました感染症患者専用マスク「ハイラックUTSUSANZO（うっさんぞ）」及び感染症予防用マスク「ハイラックKAKARANZO（かからんぞ）」によるパンデミックに備えた受注活動を医療機関中心に継続し、景気低迷に伴う需要減への対策としていく計画です。同事業部門の売上高は、72億円（前事業年度比1.7%増）となる見込みです。

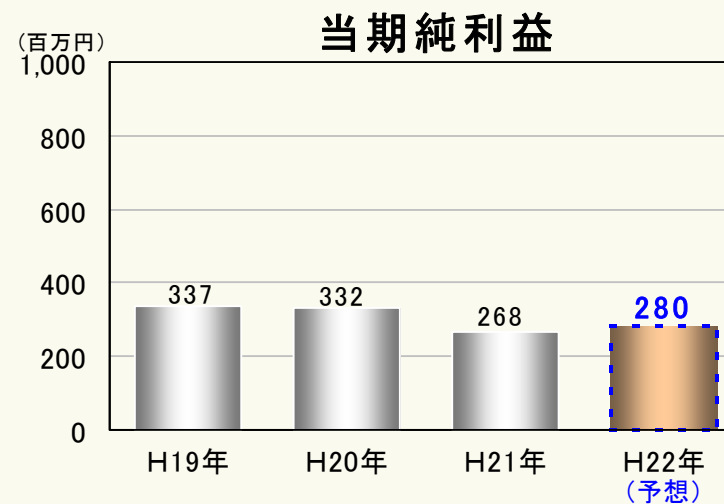
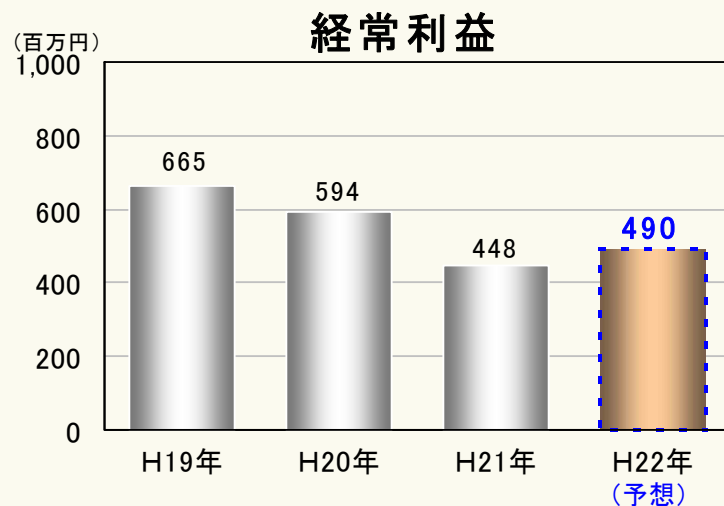
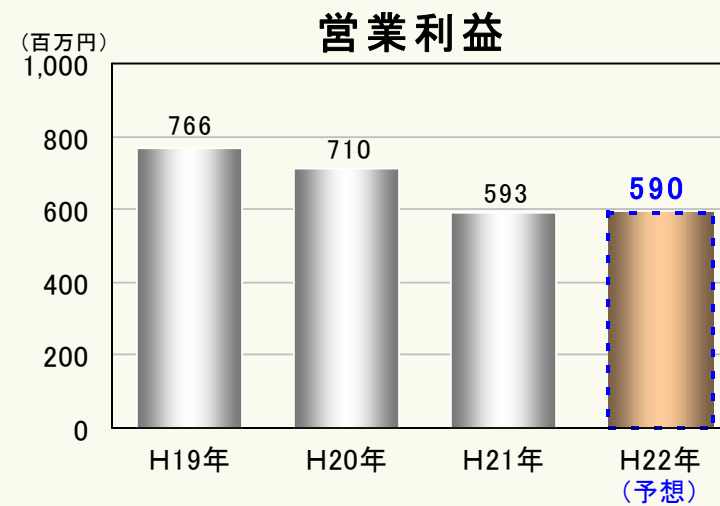
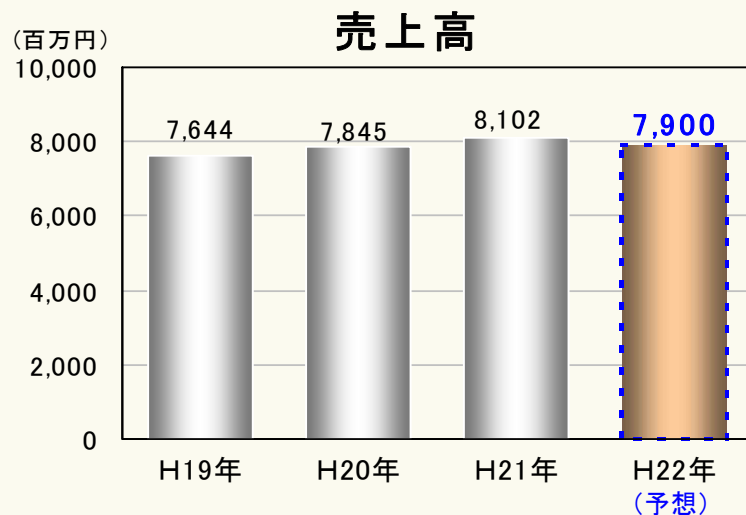
環境関連事業部門においては、大手病院でのホルムアルデヒド対策用換気装置の需要が昨年で一巡したため、次期の販売数については減少を見込んでおります。その一方で、当社のクリーンビジネスへの本格的参入への先鞭を付ける製品、オープンクリーンベンチ・オープンクリーンブース「KOACH（コーチ）」の事業の早期立ち上げを目指し注力してまいります。なお、「KOACH」は、世界初の製品であるため普及に至るまでの時間を予測することが困難で、次期の予算計画には含めておりません。それにより同事業部門の売上高の見込みは、7億円（前事業年度比31.7%減）としております。

以上により、両部門を合わせた業績は、売上高79億円（前事業年度比2.5%減）、営業利益5億90百万円（前事業年度比0.6%減）、経常利益4億90百万円（前事業年度比9.3%増）、当期純利益2億80百万円（前事業年度比4.4%増）となる見通しです。

次期の売上高及び利益の予想

Clean, Health, Safety

(百万円未満の端数切り捨て)



ご 参 考

経営の基本方針

当社は、人間の生命の価値を最も高いものと考え、それに直接係わる『クリーン、ヘルス、セーフティ』を業務テーマとし、オリジナリティの高い技術をベースとした製品を供給することにより、社会に貢献することを目的に活動しております。

そして、その実現の為に、人間の尊厳であるイマジネーションとクリエイションの発揮を社員全員に求め、結果として「他社に追随しない」「徹底して研究する」ことで、新たな技術革新と独創的な製品開発をし続けることを、経営の基本方針としております。

中長期的な経営戦略

経営の基本方針に基づき、マスク関連事業では、海外への市場展開も視野に入れながら、国内の産業分野における地位の向上を一層強化するとともに、医療分野における感染対策用マスク等のシェア拡大を図ってまいります。また、コーケンオープンクリーンテクノロジーをはじめとした当社独自の技術によって、環境関連事業を当社の主要事業に育成し、もって研究開発型の総合環境企業としてのゆるぎない地位の確立を目指してまいります。

利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、安定的な配当の維持及び向上を図ることを基本方針としております。

なお、内部留保金につきましては、より一層の経営基盤強化のため、新技術・新製品の研究開発活動及び設備投資等に有効活用し、将来の継続的發展を図ってまいりたいと存じます。

対処すべき課題

Clean, Health, Safety

リーマンブラザースの破綻以来、コスト重視の機運が優先し始め、ようやく浸透してきた「安全文化」という考え方が毀損しかねない状況となっています。

高品質を追求してきた当社にとっては厳しい現実となっていますが、従業員の健康対策の後退は企業の大きなリスクになることを訴えつつ、より信頼のおける製品開発と供給体制を整えることが求められています。

【マスク関連事業部門】

電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンクブロウーマスク」の製品価値のさらなる向上と、トンネル・溶接・石綿作業をはじめとした様々な市場への浸透を推進し、国内における市場占有率の拡大を図ってまいります。そして海外市場も視野に入れ当事業部門の核となる製品に育ててまいります。

防じんマスク・防毒マスクをはじめとする呼吸用保護具は、その防護性能を十分に発揮させるためには、適切な使用が不可欠で、特に顔とマスクのフィット（密着）の確認が重要です。当社は、フィットしやすい面体技術の追求とともに、フィットをはじめとした装着や使用方法等を顧客に伝える活動を今後も継続してまいります。

官民の天災・人災に対する防災意識の高まりや、テロ、パンデミック（感染症の世界的流行）等の新たな危機への対応の必要性が増大している中、当社はこれらの社会的要望に応えるべく、消防救助や救命救急用の保護具・機器に加え、一般市民向けの火災・特殊災害避難用マスクや感染対策用マスクなど、エマージェンシー対応製品の提案を行ってまいります。

昨年来、新型インフルエンザをはじめとする感染症対策として、マスクの着用や緊急時への備蓄が社会現象となりました。当社のN95レスピレーター（空気感染予防策として用いられるマスク）「サカキ式ハイラック350型」は、フィット性能の高さが評価され、医療機関での採用が進んでおります。そして当社では、この「ハイラック350型」をベースに開発した“感染させない”ための感染症患者専用マスク「ハイラックUTSUSANZO（うつさんぞ）」と“感染しない”ための感染症予防用マスク「ハイラックKAKARANZO（かからんぞ）」の使い分けを医療機関に提案し、さらなる普及を図ってまいります。

【環境関連事業部門】

今、医療の現場では、感染対策の早期整備やホルムアルデヒド（ホルマリン）等の化学物質の規制強化にともなう個人ばく露対策、換気対策が求められております。当社はこれまで医療施設における感染リスク、安全衛生リスクを独自の技術によって低減する全自動内視鏡洗浄消毒装置やホルムアルデヒド対策用換気装置を開発・販売し、高い評価をいただいております。今後も感染・安全衛生リスク対策の啓発活動を継続するとともに、医療施設向けのシステム・製品開発に取り組み、“医療分野を産業分野に次ぐ第2の市場に育成する”という経営目標の実現に努めてまいります。

【新事業への取り組み】

当社の環境関連事業部門には、オープン型のドラフトチャンバーとして他社の追随を許さない卓上型プッシュプル換気装置「ラミナーテーブル」があります。本製品は医療施設のホルムアルデヒド対策用換気装置の市場拡大を牽引し、同部門の売上高増に寄与しております。当社の研究開発は、「他社より先に洞察してスタートを切る」ことを重要視しており、この換気装置もその考えから生まれた製品の1つです。

当社では一昨年、ナノファイバー製フィルター「FERENA（フェリナ）」とオープンクリーンベンチ・オープンクリーンブース「KOACH（コーチ）」の技術開発に関するリリースを行った後、同技術の活用領域を一層拡大すべく、さらなる技術開発を続けております。オープン空間にクリーンゾーンを形成することができる「KOACH」につきましては、展示会への出展の度に、その世界初のクリーン化技術はもちろん、CO₂排出抑制に寄与する点でも注目度が増しており、事業の早期立ち上げを図っているところであります。当社にとってこの2つの技術は、次世代を担う新事業への布石であり、クリーンビジネスへの本格的参入を意図するものであります。今後とも、収益基盤の拡充へ向けた市場創造型製品の開発に積極的に取り組んでまいります。

【環境問題への取り組み】

環境問題への取り組みは、多くの企業が経営の重要課題の1つとしており、当社も顧客の環境問題対策に寄与する製品開発及び提案を行っております。

当社のオープンクリーンベンチ・オープンクリーンブース「KOACH（コーチ）」、プッシュプル型換気装置「コーケンラミナー」、電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンクブロウーマスク」、磁気式水処理装置「エコビーム」はすべてCO₂排出抑制に大きく寄与する製品で、そうした環境面から訴求する営業も展開しております。

また当社の各テクノヤード（製造拠点）では、製品材料及び電気、重油等の資源エネルギーの効率的活用を目指し、環境負荷の少ない原材料の選定や製品設計を行うとともに製造方法及び工程の改善に努めております。既に残反を再加工した「バイプロミクロンフィルター」使用製品の開発を行っており、それに加えて、当社が事業化した使用済みの防じんマスク用フィルターと防毒マスク用吸収缶を新しい資源として再利用する「リサイクルシステム」を積極的に推進し、環境負荷の低減はもちろん、お客様の廃棄物処理負担の軽減に役立ててまいります。

【製造力強化】

需要の増大や新市場への展開を進めるため、製造本部を軸としたテクノヤード（製造拠点）の製造力強化を図ってまいります。

事業等のリスク

当社の事業、経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。
なお、文中における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において当社が判断したものです。

①研究開発について

当社は、研究開発型の総合環境企業として「クリーン,ヘルス,セーフティ」に係わる革新性の高い製品を市場に供給することを目的に経営資源の投入を行っておりますが、研究開発の全てが、新製品の開発や営業収益の増加に結びつくとは限らず、また、諸事情により研究開発を中止せざるを得なくなった場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社はオリジナリティの高い技術をベースとした製品開発について、必要な知的財産保護手続きを行い、既に特許等も多数保有しておりますが、その独自の技術を法的制限のみで完全に保護することには限界があり、第三者が当社の知的財産を使って模倣品や類似品を製造、販売することを防止出来ない可能性があります。そういった事象が発生した場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

②法的規制について

当社の事業は、「労働安全衛生法」「薬事法」「製造物責任法」等の様々な法規制に関連しており、これら法規制を遵守すべく、コンプライアンス体制の強化と内部統制の整備を今後さらに進めてまいります。

万一これらの法規制に適合しない事象が発生した場合、製品の回収や当社が進めている事業に制限が出る可能性があります。また、新たな法規制の制定や改正がなされた場合は、設備投資等の新たな費用が発生することにより、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

③品質保証・品質管理について

当社の製品は、過酷な環境下での使用が想定されることに加え、使用者の安全と健康を守るという製品の特徴から、より高い耐久性、信頼性が求められております。

当社は、社長直轄の品質に関わる独立した部門である品質保証室を設置するとともに、ISO 9001に基づく品質マネジメントシステムを構築及び維持することにより、万全な品質保証体制を取っております。そして品質保証室は、各テクノヤード（製造拠点）に製品検査員を配置し、テクノヤードの製造工程、検査工程の監視を行い、テクノヤードは、日本工業規格、厚生労働省国家検定規格及び当社独自の厳格な品質保証・品質管理基準による製品の製造を行っております。

以上万全な品質保証・品質管理体制を維持、強化いたしておりますが、厚生労働省の呼吸用保護具買取り試験による不適合の指摘を予期せぬ要因で受けたり、製品の欠陥及び故障が発生する等した場合は、回収、修理費用等の負担などにより、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、平成21年12月29日付「BL-700Hの回収について」の発表の通り、対象品につきましては、回収を実施致しております。今後、種々の観点からのリスクアセスメントを行い、さらなる品質保証・品質管理体制の強化を図ってまいります。

④災害及び感染症等について

地震等の自然災害や事故及び新型インフルエンザ等の感染症によって、生産活動の停止等、事業活動の継続に支障をきたす事象が発生した場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。なお、製造拠点であるテクノヤードは、受診した地震リスクの調査結果に基づいた事業継続計画の立案に着手・実行しております。また、感染症対策として、自社製の感染対策用マスクを従業員全員へ配布するとともに、各事業所での備蓄を行っております。

⑤環境問題について

当社の研究所とテクノヤードの計2ヶ所において、過去に発生したトリクロロエチレンによる土壌・地下水汚染の浄化対策を継続的に実施し、順調に浄化が進んでおりますが、浄化が完了する時期の想定が現在のところ難しく、浄化対策が長期間を要した場合、その対策に関わる費用は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑥情報セキュリティについて

当社は、事業遂行に関連して、技術、営業、その他事業に関する機密情報を多数有しております。情報管理には万全を期しておりますが、予期せぬ事態により情報が流出した場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑦内部統制について

当社は、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に係る法令等の遵守並びに資産の保全という観点から内部統制システムの充実に努めております。しかしながら、内部統制システムには一定の限界があり、構築した内部統制システムにおいて想定する範囲外の事態が発生した場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

本資料の平成22年12月期業績予想数値及び将来に関する事項につきましては、平成21年12月期決算発表日(平成22年2月4日)現在において、入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る平成21年12月期決算発表日現在における仮定を前提としております。今後、様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>